



# しずおかランニングパトロール

ランニングをしながら地域を見守る「しずおかランニングパトロール(SRP)」の第2期の活動は、新型コロナウイルス感染症が流行する中で、感染対策を図りながら自主活動が盛んに実施された。チームでの登録が可能になったことなどを背景にランナーが増加し、県内各地で防犯の目が広がりを見せた。10月からは第3期がスタートする。  
(社会部・佐野由香利)

## コロナ対策図り活動継続



▲夜間に街中をパトロールするランナー＝静岡市葵区

◀下校児童に声を掛けるランナー＝袋井市

## 走って地域見守る 輪広がり第3期へ



「こんばんは」「気を付けて帰って下さい」。黄色の目立つTシャツやビブスを身に着けたランナーは、すれ違う子どもや大人に声を掛けながら、地域の学校周辺や街灯の少ない道など、5キロを巡回する。マスクを着用して互いの間隔を空けるなど、感染対策を

意識しながら「コロナ禍でもできる、必要な活動」として地道に続けている。

2020年10月に始まった第2期の登録ランナーは、第1期から80人増の336人。個人登録だけでなく第1期から、第2期は職場やランニング仲間もチームでの登録が認められた。


第1期から活動する静岡市葵区の甲斐谷吉さん(51)は、第2期は静岡東山PTAの仲間とチーム登録した。自主活動は仲間と役割分担を明確にし、企画しやすくなり、PTAのネットワークで広く参加を募って盛り上げる。「見守られている緊張感や見守られている安心感を与える存在になりたい」と言葉に力を込める。

県内の活動拠点は第1期の8カ所から14カ所に拡大した。伊豆地域で初めてとなる松崎町にも拠点が生まれた。リーダーの村中弘親さん(38)は「自分たちが走って見守っていることを伝えることが防犯につながる」と実感する。

第1期では1時間半かけて自宅のある河津町から沼津・三島エリアでの活動に参加していた村中さん。移動時間は50分短縮し、地元の仲間も誘いやすくなった。出合いに恵まれた活動に感謝しながら、「今後も犯罪のない静岡市を創成したい」と意気込む。

県学生活安全企画課の杉山雅崇課長補佐(右)は「安全安心なまちづくりは市民の力があってこそ。継続して若い世代につなげてほしい」と願う。

**石川 礼一郎さん**  
81歳 静岡市葵区在住



活動に備えて 体力を強化

一緒に活動する若い人たちに迷惑を掛けるはいけないと思い、ランニングを週2、3回行って体力強化に努めている。活動があるから、いつまでも元気になりたいと思う。PTA役員や少年輔導員として見守り活動に当たった経験があり、子どもたちにはためらうことなく声を掛けている。楽しさもあり、できる限り続けたい。


**内山 喜敬さん**  
21歳 掛川市在住



親しまれて 楽しさを実感

自主活動として防犯サークルで週1回、大学近くの小学校の下校時に、通学路周辺で子どもの見守りをしている。皆で楽しみながら、市民を見守る目になれたらと思う。地域の人に感謝され、小学生が後を追い掛けてくるなど少しずつ親しまれてきたと感じる。多様な立場の人と交流できるのも楽しさの一つ。気軽に参加してほしい。


**渡辺 啓佑さん**  
34歳 藤枝市在住



通行者目線で 危険キャッチ

警察官(袋井署勤務)として地域の犯罪状況をランナーに伝え、自らもランナーとして参加している。走るパトロールは、通行者と同じ目線で危険箇所を把握でき、車両が通れない巡回空白地帯の解消にもつながる。見守りの目を増やすことで犯行をたくらむ人は警戒する。子を持つ親としても、地域を守ろうと活動する人々の存在は心強い。


**山野井 実さん**  
64歳 静岡市駿河区在住



すれ違う人に 元気に声掛け

地域貢献をしながら、趣味のランニングが楽しめる活動にやりがいを感じる。夜に走っていると、ライトをつけていない車や運転マナーが気になる自転車が目立つ。長年の百貨店勤務で、来店客への声掛けが万引など犯罪の抑止につながることを実感していた。活動中は、すれ違う市民に元気づく声掛けをすることを心掛けている。

**米原 雅子さん**  
46歳 沼津市在住



女性の気付き 防犯に必要

パトロールには女性の視点も必要だと感じる。女性が一人で歩いていて怖いと感じる場所などをメンバーと共有している。市民には、私たちの存在を見たら防犯活動だと分かってもらえるのが目標。それが犯罪の抑止力につながる。メンバーから刺激を受けて視野や興味が広がり、新しいことに挑戦しようと思えるようになった。